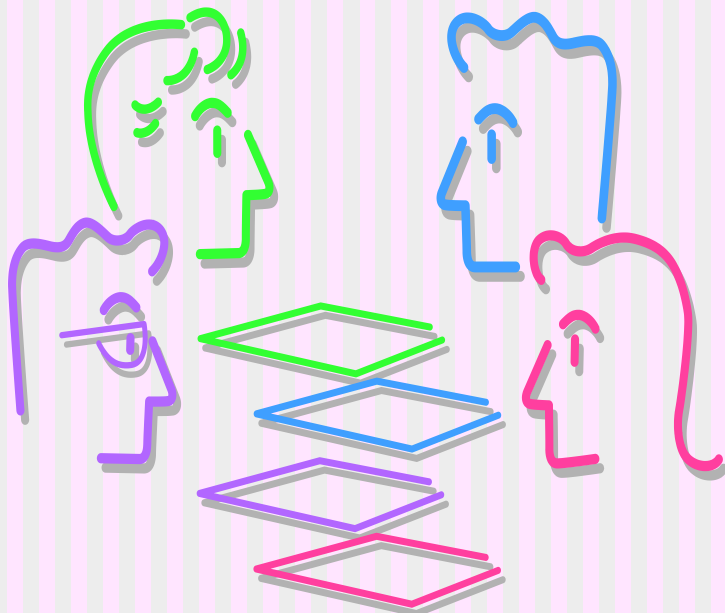


# Peer-editingで 得られるもの、得られないもの:

What can be achieved and  
unachieved in peer-editing

---



関西国際大学(非)  
中西のりこ

# 1. 背景 (1)

## ■ 対象:

- 関西国際大学(主に2年生)
- 「英語科教育法」受講者14人
- TOEIC換算点 461.6点( $SD=68.9$ )

## ■ 方法:

- 3週間に一度Writing課題(4回/半期)
- A4用紙1枚、書式はテンプレートに従う
- Editing (P=文法的誤り/T=段落構成)
- Revision (翌週に提出)

# 1. 背景 (2)

## ■ 提出されたdraft writing:

- 総語数 11.254語
- 有効なwriting 49編
- 語数平均 230語 ( $SD=55.9$ )/1編
- Readability平均 F-KGL6.63 ( $SD=1.9$ )

1編あたり

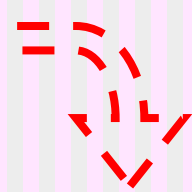
- 誤り指摘箇所平均 **(Peer) 19.0** ( $SD=6.8$ )
- 誤り認識箇所平均 **(講師) 33.8**  
( $SD=15.9$ )

(配布資料p.2-A参照)

## 2. 先行研究 (Ferris 2002)

### ■ Explanation of Error Types

- Morphological
- Syntactic
- Lexical
- Mechanical



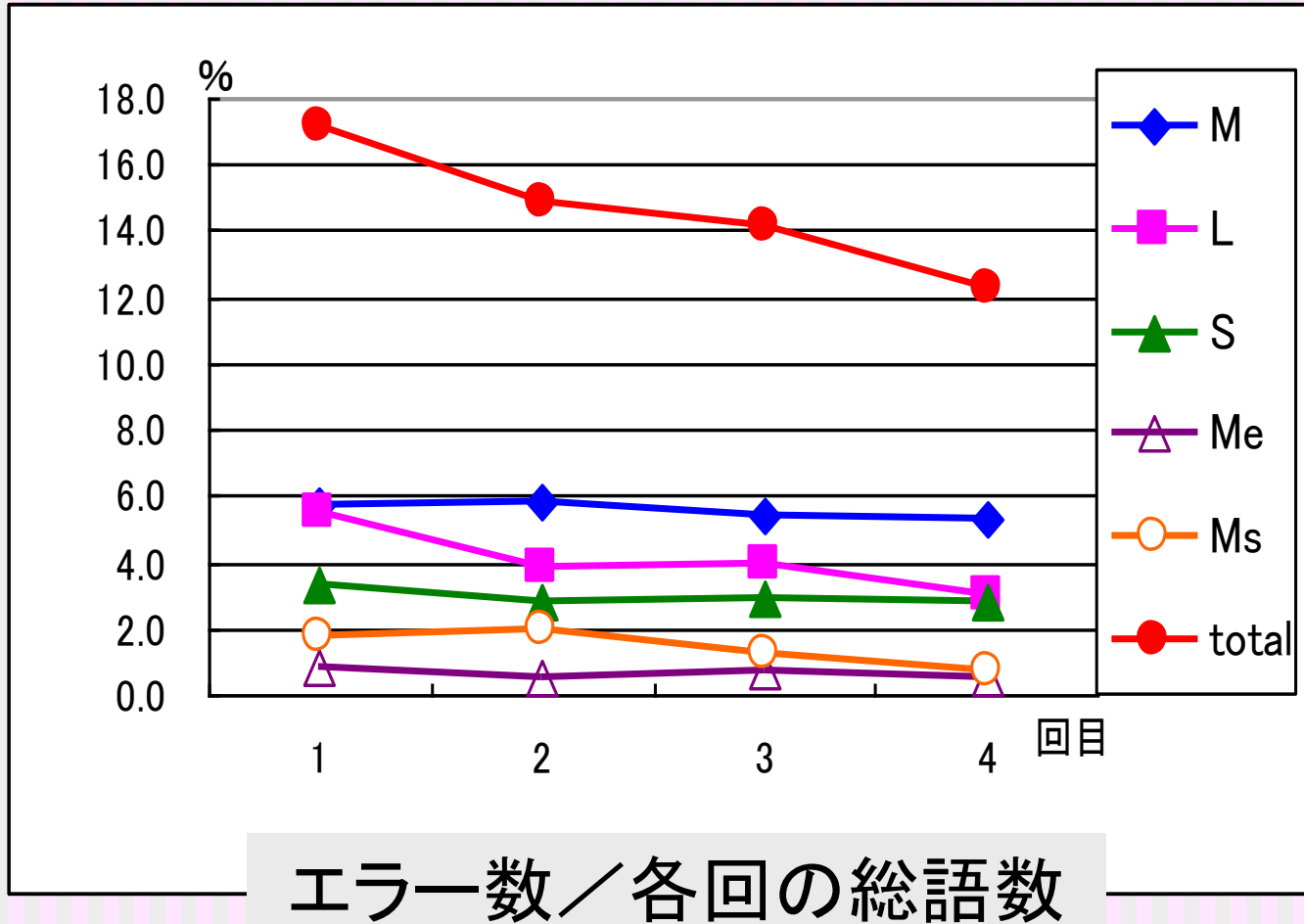
(p.2-B参照)

### ■ Treatability

- Treatable errors (Rule-governed)  
ex.) VT, VF, SV, AD, NE, FR, RO
- Untreatable errors (Idiosyncratic)  
ex.) WC, ID, SS

# 3. 傾向 (1)

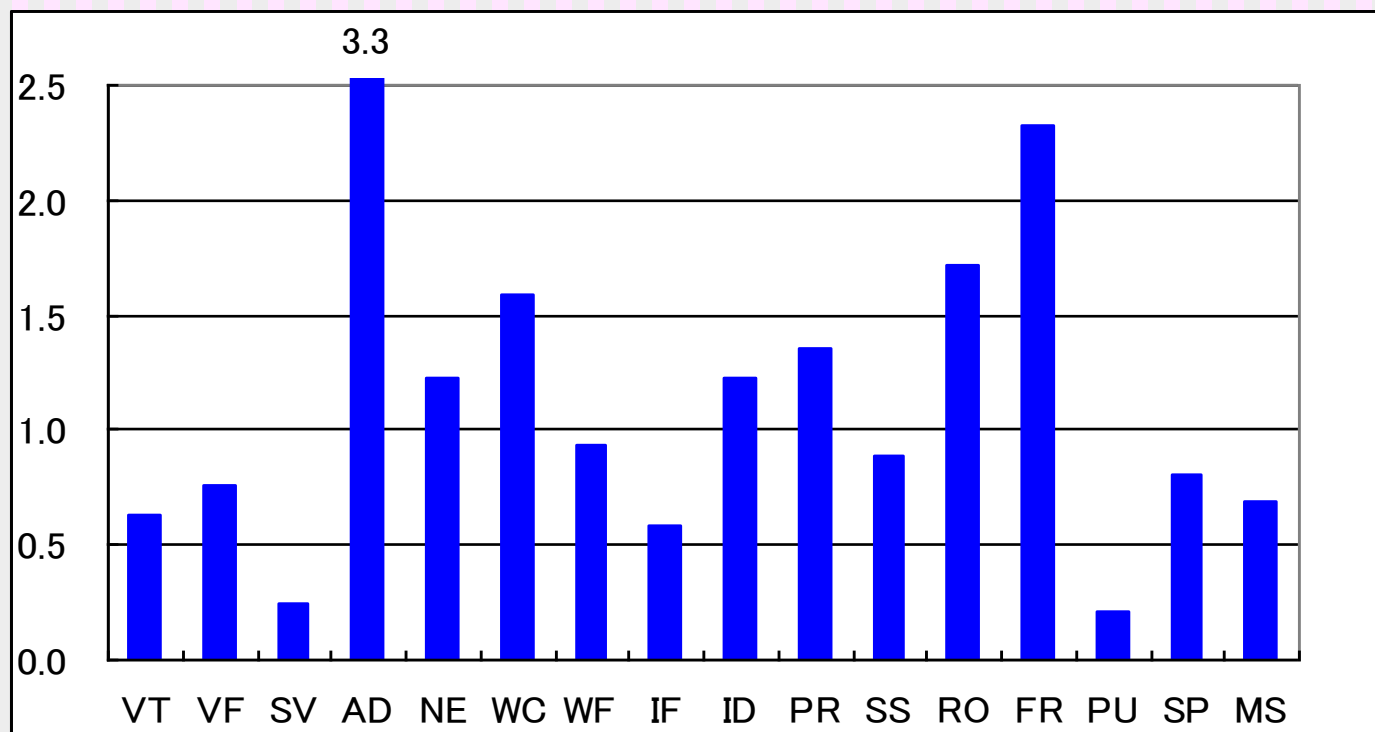
■ エラーの割合が減少した。(p.2-C参照)



## 3. 傾向 (2)

- ADエラーが指摘されにくい。

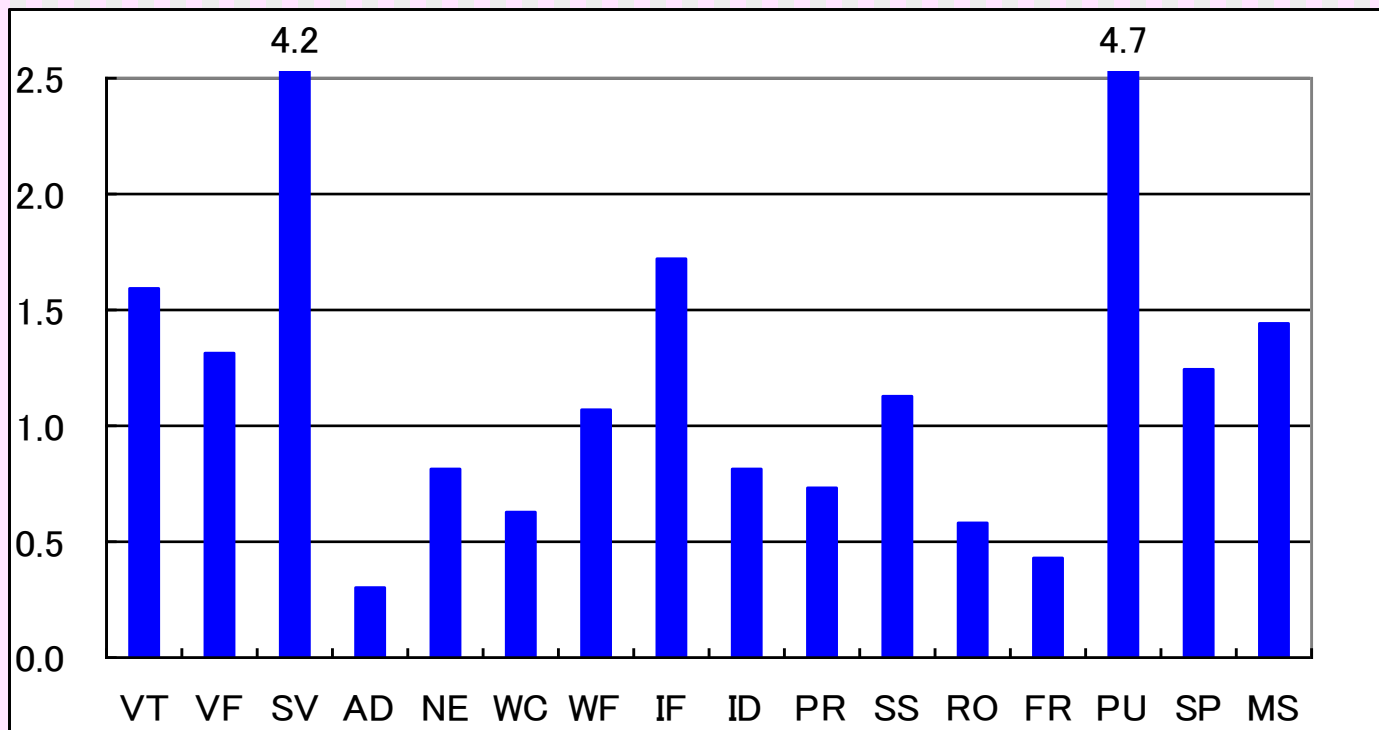
(p.3-D,E参照)



Tによる指摘率 / Sによる指摘率

### 3. 傾向 (3)

- SV, PUに不必要なエラー指摘が目立つ。  
(p.3-D,F,G参照)



Sによる指摘率 / Tによる指摘率

## 4. 学生の意識

- 文法事項についての意見交換。  
(**p.4-H**参照)

⇒作業後も自主的に辞書を引いたり文法書を参考にしたりする姿が見られた。

- Editingについての意識の変化。

(**p.4-I**参照)

⇒教職を目指す学生として、人の書いたものを添削することの責任の重さについて意識の変化が見られた。



# 5. 得られるもの、得られないもの

## ■ 効果が見られたこと

- 語彙的エラー産出の割合が減少した。
- 文法学習への動機付け
- 将来の教師としての心構え

## ■ 効果が見られなかったこと

- 語形エラー産出の割合には高い効果が見られなかった。
- 本人も産出しがちなエラーは指摘しにくい。
- 特定のエラーに対して、過剰一般化が見られた。